＜説明資料＞

第２回
常磐公園の緑を考える集い
～市民協働による公園管理～

平成28年6月23日撮影

平成28年10月19日撮影

Ⅰ はじめに

１）スケジュール【予定】

平成２８年度

第1回	○現在の常磐公園について（終了）
第2回	○秋期自然環境調査報告・常磐公園の管理　今回
第3回	○自然環境調査報告・これからの常磐公園の管理

平成２９年度～

○春夏自然環境調査・これからの常磐公園の管理

○市民協働による維持・管理の実践内容

3）本日のプログラム

- 10：30　開会　（ 5分）
- 10：35　オリエンテーション　（ 5分）
- 10：40　資料説明　現在　(40分)
  - 現地視察
    - 秋期自然環境調査報告【速報】
    - 自然更新ゾーン、ブッシュ
    - 老木の管理について
    - いただいた意見から
- 11：20　意見発表　（ 5分）
- 11：25　今後の予定　（ 5分）
- 11：30　閉会

Ⅱ 前回の概要

1）説明事項

- 公園の概要
- 常磐公園改修事業について
- 常磐公園植栽計画について
- 常磐公園の維持管理、ボランティアについて

2）意見交換

- 自然更新ゾーンについて、敷砂利はかえってよくない
- 池の水を浄化するよう検討してはどうか
- 芝の管理低減の目的などを看板などで表示し、PRしてはどうか（景観上の懸念もあり）
- 常磐公園は旭川市の貴重な観光財産であることから、市と市民が一体となって検討すべき

Ⅲ現地視察

１）秋期自然環境調査結果について

別冊「秋期自然環境調査結果【速報】」を御覧ください

２）自然更新ゾーンについて

プール向かいの旧腐葉土堆積場に試行的ではありますが8.0m×8.0mの自然更新ゾーンを設置し、落ち葉を集積しております。

３）ブッシュについて

前回、御紹介しました池の下流で水辺が陸続きとなっているところで範囲をきめて来年度に造成したいと思っています（巻末資料参照）。

４）いただいた御意見から

別冊「いただいた御意見まとめ」を御覧ください。

いただいた御意見のなかから「樹木の管理」について考えみたいと思います。

Ⅳまとめ

１）意見など

２）次回について

- 平成29年2月中を予定
- 今回同様御案内いたします。

ブッシュ
設置検討箇所

来春、範囲を決定し、芝の管理を
低減しブッシュを造成します。

〇水辺に近い（陸続き）
×近くに園路あり
×狭い面積しか確保できない

秋期自然環境調査結果について（速報）

1）自然環境調査の目的

常磐公園の改修事業完了後の環境調査を行い、環境の変化を把握するとともに、常磐公園の維持管理の手法等を検討する際の資料とするため平成28～29年度の1年間、再度自然環境調査を行います。

2）進捗と予定

年度	平成28年度		平成29年度	備考
調査項目	秋	冬	春夏	
植物調査	○		○	樹木調査を除く
鳥類調査	○	○	○	
両生類・は虫類・哺乳類調査	○	○	○	
魚類調査			○	
昆虫類調査	○		○	
微気象調査	○	○	○	

今回速報部分

※微気象調査は現在実施中です。（10/25～11/2予定）

＊以降の調査結果で記載のある用語は以下の通りです。

- 重要種：天然記念物の指定種や絶滅の恐れのある種のリスト（レッドリスト）に掲載されている種などの保全を要する種
- 特定外来種：外来生物法により飼育や移動に制限を設けられている種

秋期自然環境調査結果について（速報）

※調査結果は精査中ですので、今回は概況の速報です。今後の整理により内容は変わる可能性があります。

3）秋期調査結果（速報）

（1）植物

- 「植物相調査」（範囲内を歩いてどんな種があるか確認）、「コドラート調査・断面調査」（代表的な場所で植物がどんな構造を作っているか確認）、「植生図作成調査」（堤防工事部分で植物が面的にどのように分布しているか確認）を実施しました。
- 調査は10月1日～2日に実施しました。

秋期自然環境調査結果について（速報）

３）秋期調査結果（速報）

（１）植物

- 重要種は以下の5種で、いずれも前回調査時に確認されています。石狩川側で確認されたミクリ以外は植栽されたものと推測されます。
  - エゾムラサキツツジ
  - キンロバイ
  - エゾシモツケ
  - エゾサンザシ
  - ミクリ
- 特定外来種は前回調査時にも確認されたオオハンゴンソウが確認されました。
- 堤防整備部で新たに確認された種は、外来種ではアメリカオニアザミなど、在来種では一年草のアキノエノコログサなどでした。整備直後の明るい環境に侵入したり埋土種子から発芽したりしたと考えられます。

重要種キンロバイとその生育環境

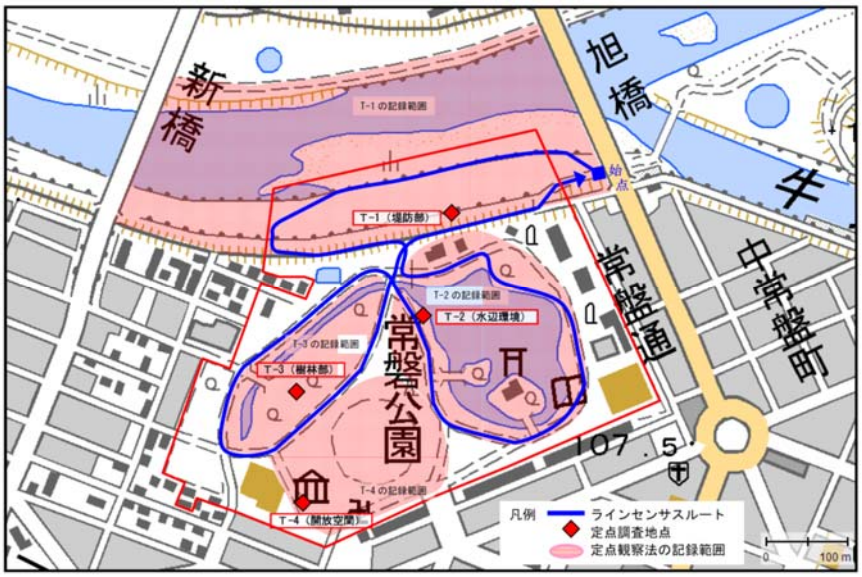
特定外来種オオハンゴンソウとその生育環境

秋期自然環境調査結果について（速報）

３）秋期調査結果（速報）

（２）鳥類

- 「鳥類相調査」（どんな種が生息するか確認）を実施しました。
  - ルートセンサス：一定のルートを歩く調査
  - 定点調査：特定の定点で30分間の観察を行う調査
- 調査は10月16日～17日に実施しました。



秋期自然環境調査結果について（速報）

３）秋期調査結果（速報）

（２）鳥類

- 樹林部ではシジュウカラやアカゲラ、水辺環境ではマガモやキンクロハジロ、石狩川側ではトビやカワラヒワなどが確認されました。
- 重要種は、オオタカ（亜成鳥）が石狩川側で確認されました。
- 特定外来種は確認されませんでした。
- なお、両生類・爬虫類・哺乳類調査時（9/22 9:25）に多目的広場（グラウンド）に隣接する高木林で、重要種であるクマゲラ1羽が鳴きながら飛翔するのが確認されました。

アカゲラ

キンクロハジロ

トビ

オオタカ

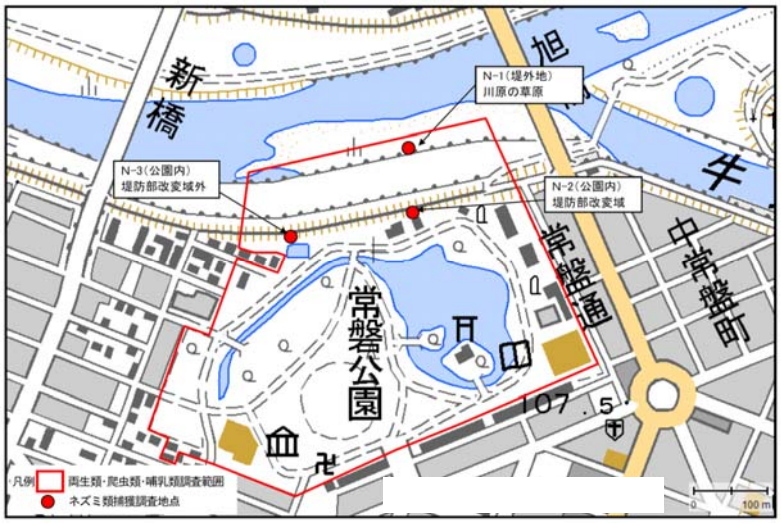
両生類・爬虫類・哺乳類調査時（9/22 9:25）にクマゲラが確認された多目的広場に隣接する高木林

秋期自然環境調査結果について（速報）

３）秋期調査結果（速報）

（３）両生類・は虫類・哺乳類

- 「両生類・は虫類・哺乳類相調査」（どんな種が生息するか確認）を実施しました。
  - 目視・痕跡調査：範囲内を歩いて個体や足跡・ふんなどの痕跡を確認する調査
  - 捕獲調査：ネズミ類等を対象に餌を用いたワナで捕獲する調査
  - コウモリ類調査：コウモリ類が発生する音声を受信する機械（バットディテクターを用いる調査
- 調査は9月21日～23日に実施しました。



ネズミ類捕獲用のワナ（シャーマントラップ）

秋期自然環境調査結果について（速報）

３）秋期調査結果（速報）

（３）両生類・は虫類・哺乳類

- 両生類でアマガエル、哺乳類でヤマコウモリ、エゾアカネズミ、キタキツネ、エゾタヌキが確認されました。爬虫類の確認はありませんでした。
- 重要種であるヤマコウモリはねぐら木であるドロノキの樹洞からの複数個体が出巣する様子が確認されました。
- エゾタヌキは前回調査時に確認はなく、今回は石狩川側で足跡が2例確認されました。
- 特定外来種の確認はありませんでした。

※爬虫類は、前回調査では春・夏にクサガメとミシシッピアカミミガメが確認されています。

重要種ヤマコウモリのねぐらの樹洞と出巣の様子

エゾアカネズミの食痕

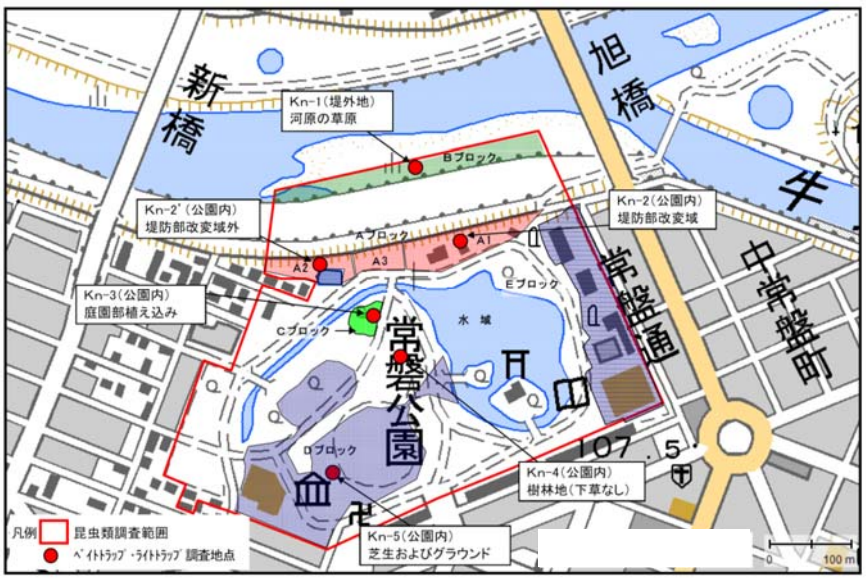
エゾタヌキの足痕

秋期自然環境調査結果について（速報）

３）秋期調査結果（速報）

（４）昆虫類

- 「昆虫類相調査」（どんな種が生息するか確認）を実施しました。
  - 任意採集：捕虫網等を用いた採集方法
  - ベイトトラップ：地表に餌を入れたワナを置いて落ちた昆虫を採集する方法
  - ライトトラップ：夜間にライトを点灯させて集まった昆虫を採集する方法
- 調査は9月21日～23日に実施しました。



Ⅱ秋期自然環境調査結果について（速報）

３）秋期調査結果（速報）

（４）昆虫類

- 園内では、植栽種の多い場所でキバネハサミムシやヒメツノカメムシ、樹林地ではキイロスズメバチやクロヤマアリ、芝生付近ではノシメトンボやセイヨウオオマルハナバチ、水域ではアメンボなどが確認されました。
- 堤防では、整備された範囲ではオツネントンボやモンキチョウ、改変されなかった範囲ではノシメトンボやヨツモンカメムシなどが確認されました。
- 石狩川側では、アキアカネやカワラバッタなどが確認されました。
- 重要種は、前回調査時に確認のなかったハラオカメコオロギ（北海道レッドデータブック2001 希少種）が、堤防の階段の隙間で確認されました。
- 特定外来種は前回調査時にも確認されたオオマルハナバチが確認されました。

重要種ハラオカメコオロギとその確認環境

モンキチョウ

特定外来種オオマルハナバチ

秋期自然環境調査結果について（速報）

３）秋期調査結果（速報）

（５）その他

- 庭園部において、公園利用者による餌やりと思われるペットフードやパンが散乱しているのが確認されました。（両生類・爬虫類・哺乳類調査時）

ペットフードとパンが散乱した様子

アキノエノコログサ　イネ科　973

Sataria faberi

高さ 50～100 cmになる 1 年草／茎は硬く節ごとに少しずつ曲る／葉は広線形で長さ 10～30 cm。ねじれて裏面が上を向くくせがある／花穂は細長い円柱状で長さ 5 ～12 cm。先が垂れる。緑色だが，ときに紫色をおびる／秋の狗子草。狗は犬のことで，花穂を子犬の尾に見立てたもの／→エノコログサ，キンエノコロ

✳ 9 ～11 月
道端，空地，川原
新篠津村
日本全土

キンエノコロ　イネ科　974

S. glauca

高さ 20～50 cmの 1 年草／茎は根元でだけ枝分れし，群生する／葉は線形で多少ざらつく／花穂は長さ 3 ～10 cmの円柱形で直立。小穂に多数の黄金色の毛(芒)が生え，花穂全体が金色に見える／金狗子。金狗尾

✳ 8 ～10 月
道端，空地，田畑のあぜ
札幌市
日本全土

エノコログサ　イネ科　975

S. viridis

高さ 20～70 cmの 1 年草／茎は直立し根元から分れて茎を出す／葉は長さ 15～20 cm，幅 5 ～15 mm／花序は円柱状で長さ 5 ～10 cm。茎の上端につく。小さな穂と枝が退化した刺毛を密生。小穂は 2 ～2.7 mm／狗尾草。花穂が子犬の尾状／＝ネコジャラシ／→ムラサキエノコログサは花序が紫色(右上写真)

✳ 8 ～ 9 月
低地の草原・道端
苫小牧市
日本全土

ハマエノコロ　イネ科　976

S. viridis v. pachystachys

高さ 10～20 cmの 1 年草／茎は根元で枝分れし，地面をはうように四方に伸びる／葉は短く 10 cmに満たない／花穂も短く，楕円形に見え，長さ 2 ～ 4 cm。花穂にはエノコログサの 2 倍の長さの毛が生える／エノコログサの海岸型変種／浜狗子，浜狗尾

✳ 7 ～10 月
海岸の岩地・草地
寿都町
日本全土

オオシバナ　ホロムイソウ科　977

Triglochin maritimum

高さ 10～80 cmの多年草／根茎は太く横にはい，ひげ根を出す。叢生。茎は円柱形／葉は根元から出て線形，長さ 10～35 cm，幅 1.5～ 5 mm。基部は鞘になって茎を抱く／茎の先に小さな花を多数つける。花被片は 6 枚で長さ 3.5～4.5 mm／大塩場菜。海岸の塩湿地に生えることから

✳ 6 ～ 9 月
海岸の湿地，潟湖の岸等の塩湿地
佐呂間町
北海道，本州，四国，九州

ス ガ モ　アマモ科　978

Phyllospadix iwatensis

深さ 1 ～ 8 mの海底の岩上に生育する多年草／葉は長さ 1 ～1.5 m，幅 2 ～4.5 mmで 5 脈があり偏平なリボン状。古い葉は枯死した後，黄褐色の繊維として残る／雌雄異株で花序をつける枝は短く，軸は偏平／アマモとともにオオハクチョウなどのえさとなる／菅藻。葉の形が菅に似るため

✳ 4 ～ 5 月
浅い海底
知床海岸
北海道，本州(北部)

チシマアザミ　キク科　478

C. kamtschaticum

高さ1～2mになる大形の多年草／葉は長さ17～35cmで無柄，基部は茎に延下し，ふちにはトゲが多く，全縁のものから羽状に中裂するものなど変化が多い。根出葉は花時には枯れる／頭花は多く下を向いてつき，総苞は球状鐘形，蜘蛛毛があり，花冠の長さは15～17mm／千島薊／＝エゾアザミ

✱7～9月
山野の草原，明るい林内，林のふち
野幌森林公園
北海道

エゾノサワアザミ　キク科　479

C. pectinellum

高さ50～150cmになる多年草／茎は細く，有毛，上部には蜘蛛毛がある／根葉は長さ30～45cm，羽状全裂し，裂片は10～11対で線状披針形で花時には枯れる，中葉も櫛歯状に全裂／頭花は下垂してつき，総苞は偏球形，多少蜘蛛毛がある／蝦夷沢薊／→ミヤマサワアザミは葉の裂片の幅が広く大雪山に分布

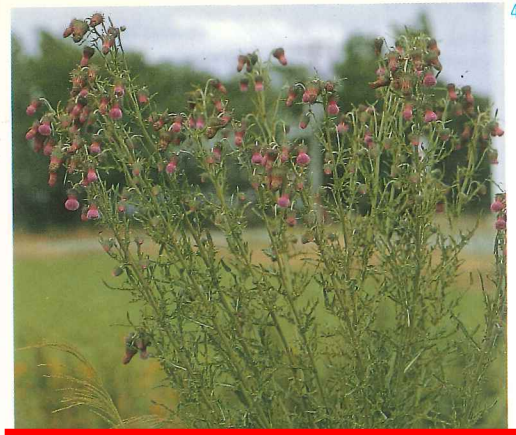
✱7～8月
低地の湿原
雨竜町
北海道

ミヤマサワアザミ　キク科　480

C. pectinellum v. alpinum

高さ25～30cmの多年草／全体に白綿毛がある／葉は櫛の歯状に羽状全裂し，裂片は10～11対，裂片の幅はエゾノサワアザミより広い／頭花は紅紫色でやや多数が分枝した枝頂に下垂して咲く／エゾノサワアザミの高山型／深山沢薊

✱7～8月
高山帯の草原・湿地
大雪山
北海道（中央高地）



タカアザミ　キク科　481

C. pendulum

高さ1～2mの大形の2年草／短い根茎をもち，茎は直立して高さ1～2m，上方は分枝し蜘蛛毛がある／根葉・下葉は花時には枯れる。茎の中部の葉は狭楕円形で長さ15～25cm，深羽状分裂／頭花は多数で下垂する。花冠は特に細く，長さ17～22mmで花筒の狭い部分の長さは他の部分の1.5～2.5倍ある／高薊

✱8～10月
湿った草原・原野
当別町
北海道，本州（関東以北）

アメリカオニアザミ　キク科　482

C. vulgare

高さ0.5～2mになる大形の2年草／全体にわたって翼があり，翼には鋭いトゲがある／葉は鋭くとがって深く切れ込み，触ると痛い／花は大きな頭状花をつけ，径3～4cm／実は茶褐色で3mmほど。白く羽状に分れた冠毛がある／アメリカ鬼薊／ヨーロッパ原産の帰化植物

✱8～9月
耕作をやめた畑，道端，原野
湧別町
北海道，本州

サワアザミ　キク科　483

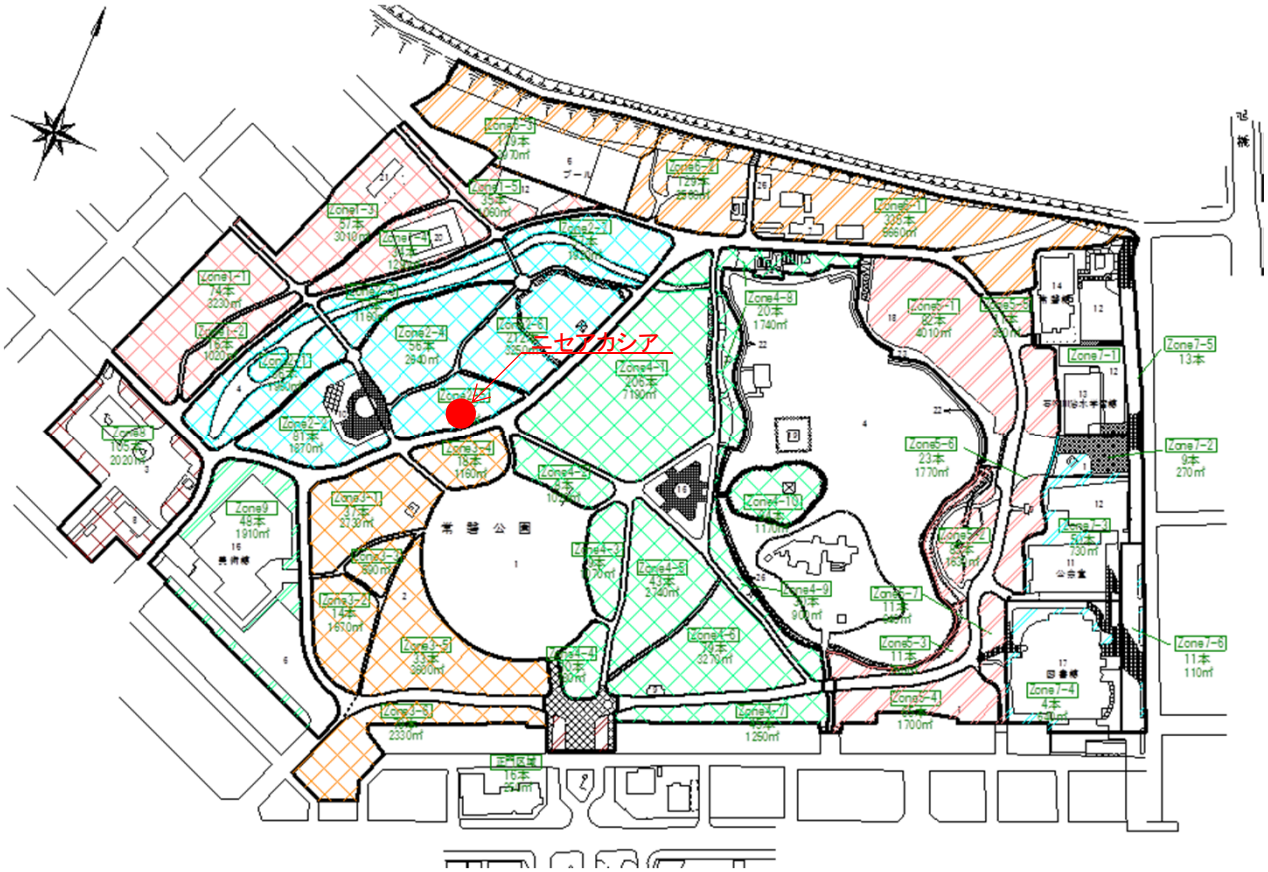
C. yezoense

高さ1～2mの多年草／短い蜘蛛の巣状の毛がある。よく枝分れする／葉は大形で長さ50～60cm，幅30cm，羽状にさけ5対ある。ふちには不ぞろいにトゲ状の鋸歯がある／頭花は大形，径5cm内外，枝頂に1個が点頭してつき，外側に曲る苞葉が2～4枚ある。花冠は長さ2cmほどで先が5裂する／沢薊

✱9～10月
山地の森林内
南茅部町
北海道（南部），本州（北・中部）

常磐公園緑の維持管理の事例

［老朽木の対応］
H27年度の事例



H27年度調査時

大きな傷,腐朽があり,樹勢が衰弱。→間伐の検討

当面の対応として，剪定を行い，
経過観察

老朽木（現在の状況）